



○ 山林管理の視点からの自伐型林業  
○ 勝山市役所周辺施設のファシリティマネジメント(案)について

その他の質問

- ・地域おこし協力隊の現状と展望について
- ・中学校再編計画について



李 江嵐 議員  
優政一心会

議 ①昨年に続き今年も大雨の影響で市内各地で災害が起きた。そのような状況下で、実際に環境保全型とも言える自伐型の作業道が整備されている山を視察された感想とGISシステムの有効活用化について伺う。

理 ②森林環境譲与税の活用方法として福井市で取り組んでいるような環境負荷の少ない作業道整備や重機のレンタル、山林管理に必要な道具に対する制度を設けることは非常に有効だと考える。支援事業の整備を検討いただきたい。

議 ①大雨が降った後確認をしたが、自伐型により整備された作業道はほとんど被害を受けなかった。今後の山林の整備にあたっての1つの考え方だと思つた。

理 GISシステムについては、今年度から当市でも利用可能となったため、効果的に活用していきたい。

議 ②福井市の補助メニューを含め、他の市町の補助メニューも参考に、当市の森林状況や林業事業者の意向に沿った支援を検討していきたい。

議 公共施設の削減が課題と

なる中で、教育会館をこども会館化する計画が持ち上がっている。あわせて全天候型遊び施設を作る案があるが、アクセスも良く人びとの目にも止まりやすい場所に作るべき。まちづくりの観点として市外観光客にも勝山の子育ての取組を知ってもらう場所としても効果が期待できるような作って欲しい。国道沿いのロードパーキングにより良い遊び場施設を作る方法もある。子ども関係部署はすこやかに集約し、教育会館は高齢者対応と文化・歴史の発信を中心とした方が利がある。すこやかと市役所周辺を行き来する手間を無くすメリットもある。所見を伺う。

理 今回整備を予定している全天候型子ども遊び場は観光客を目的としていない。子どもに関する政策を教育委員会に集約し、一元的に担当する部署としてこども課を設置した。教育委員会に子ども政策を一元化し就学前児童の小学校へのスムーズな移行、小学校と児童センターとの連携強化で、保護者の不安の解消を目指すものであり、子ども関係部署のすこやかへの集約は考えていない。



○ 災害復旧工事について  
○ 市内交通手段について

その他の質問

- ・道の駅「恐竜渓谷かつやま」の駐車場について
- ・窓口業務について



近藤 栄紀 議員  
市政会

議 災害復旧事業は原形復旧工事が基本と聞いているが、それに加え再度災害防止を図る改良復旧工事があるが、昨年度の復旧工事計画はどうであったか、今回の復旧工事計画はどのように考えているのか。

理 原形復旧だけでは十分な災害対策が発揮できない場合、災害改良復旧事業にて施設機能の強化を行うことができるとされているが、この事業は事業の採択を受ける際の要件のハードルが高く、県内では過去に数件ある程度。しかし、県関連災害復旧事業である皿川の荒土町伊波地係では、奥越土木事務所が災害復旧事業とは別に緊急自然災害防止対策事業を活用し、堤防高上げを進めていただいている。伊波地区では農業用取水施設の位置・構造が浸水被害につながった可能性が高く、市として設置位置の変更を含む施設改良工事について、奥越農林総合事務所と協議をしている。また、野津又川においては、奥越農林総合事務所が復旧治山事業などを活用し、新たに治山ダムを4基整備していく計画。

議 フルデマンドバスの拡充、勝山・大野線の運行の確保、令和9年4月の新中学校の開校に併せたスクールバスの運行、これらをふくめた、車両及び乗務員の確保をどのように考えているのか。

理 フルデマンドバスの運行状況については、利用者数が増加し、便利になったという声がある。現状分析と研究を進め北郷方面及び野向方面以外への導入を検討していく。広域路線バス勝山大野線は、運転手不足を理由に、他の交通事業者を引き継ぎ、撤退したいとの申し出があった。現段階では地元事業者との合意には至っていない。

議 スクールバスについては、再編準備委員会のPTA部会において最大12ルートを想定して検討している。必要となるバスや運転手の確保のため、公共交通の活用も視野に入れる必要もあると考えており、バス会社との調整等も検討していく。バス通学の対象生徒を15キロメートル以上としたこと等で大型のバスが必要になることも想定され、この場合、国の補助金等の活用も検討していく。